

2023年度 委員会事業報告書

担当副理事長 高木伸也

持続可能な組織構築委員会 委員長 久保 馨

1. 委員会開催日（12回）

01/23 02/20 03/27 04/10 05/29 06/26 07/24 08/28 09/25
10/23 11/20 12/13

2. 事業報告

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| (1) 賀詞交歓会(1月例会)の担当 | 01月18日 |
| (2) 4月例会の担当 | 04月20日 |
| (3) クリスマス家族会・卒業生を送る会(12月例会)の担当 | 12月06日、12月09日 |
| (4) JCI ASPACの担当【ジャカルタ】 | 05月10日～13日 |
| (5) 東海地区 東海フォーラムの担当【静岡】 | 07月08日 |
| (6) 新入会員募集の担当 | 通年 |
| (7) 新入会員予定者オリエンテーションの担当 | 通年 |
| (8) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (9) 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

久保 馨 松本香澄 浅井英昭 石川裕之 加藤康臣 柳田進也 佐々木亮 佐藤考晃

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、メンバーが目的意識をもち、共通の方向を目指して活動ができる組織となることで、継続して海部津島で活躍できる組織となるよう活動を行いました。

まずは、賀詞交歓会（1月例会）において、日頃から我々の活動を支えていただいている各行政や関係諸団体の方、先輩諸氏へ2023年度の方針と新春のお慶びを申し上げるとともに、感謝と敬意を表す場を設けました。また、飯田理事長から力強い発信と両委員長から委員会方針を伝えることによって、より一層のご理解とご協力を得ることができました。メンバーもこの団体が地域の方々の支えによって成り立っていることを再認識し、我々が2023年度目指す方向について共通理解を得ることができました。

4月例会では、メンバーが運動に対しての目的意識を身に付け、共通理解をもって活動ができるよう意識変革していただくために、講師講演とワークを実施し目的を達成する予定でしたが、講演内容は個人の目的を明確にし、個人目的の実現と組織の発展を一致させることが大事であるという講演内容となってしまいました。メンバー個人の目的実現と組織の発展を一致させることが必要であるという内容となってしまい、本来伝えるべきことを伝えることができず、メンバーは運動に対し

での目的意識を身に付けるということまでには至りませんでした。そのため、11月例会前に公開委員会を行い、12月例会前にも公開委員会と同じ内容を個別に依頼し実施していただきました。公開委員会の内容は、目的をもっている場合ともっていない場合で行動が変わり、結果が変わることがわかる動画を視聴していただき、各例会の議案をメンバーに渡し、例会の目的を知り、その目的を達成させるために各メンバーがどのような行動をすればいいのかを考えて、アンケートでアウトプットしていただくことで理解していただきました。1回目の公開委員会と2回目も同じ内容で実施したアンケートの結果から、メンバーは各例会の目的を理解し、目的を理解した場合と理解していない場合の結果の違いも理解し、例会の目的達成のために目的意識をもって行動しますと回答を得ましたので、各メンバーは2回の公開委員会を経て、各例会の目的を共通理解し行動を変えることができ、目的意識を身に付けることができたと考えます。

12月例会では、第1部で卒業生に対してお祝いのお言葉とサプライズ動画を送ることで卒業されるメンバーの新たな船出をお祝いし、残るメンバーには卒業生からの青年会議所活動に懸けてきた想いを受け継ぎ、次年度以降の活動に対する意欲を高めていただく場を設けました。第2部では家族や身近な方へ日頃からの感謝の気持ちを表し、楽しい時間を分かち合いました。また2023年度の青年会議所活動が様々な方からのご協力で成り立っていることを知っていただき、我々の団体が地域から必要とされていることを理解してもらうためにクリスマス家族会を設けました。卒業生に対して、サプライズ動画を送り今まで青年会議所に懸けてきた活動を振り返り思い出していただくことで、卒業生から青年会議所に懸けてきた想いを引継ぐことができ、残るメンバーは次年度以降の活動意欲を高めることができたと考えます。家族や身近な方に対して、日頃の感謝の気持ちを込めてパーティーを行うような特別な会場で食事をしてもらい、サプライズでのバルーンパフォーマーの余興や子どもへのプレゼントタイムを実施し楽しんでいただくことができたと考えます。

年間を通して、持続可能な組織を構築するためには、運動の目的意識をもち共通の方向を目指して活動ができる組織となる必要があるということをメンバーに理解してもらうことができ、持続可能な組織を構築することができましたので、基本方針を達成することができたと考えます。その結果、メンバーは目的意識をもった状態で例会に臨むことができ、その結果例会の目的意識をもつことでメンバーが目的達成のためにどのような行動がすればいいのかが明確となり、少人数でも例会の目的を達成できたと考えます。

会員拡大では、2名の入会となりました。2名で終わってしまった最大の原因は、会員拡大委員会ではないということで担当の認識が低い状況でスタートしてしまい、拡大活動をどのように進めればいいのかわからない状況が続き、他のメンバーを巻き込むことなく、少人数で拡大活動を行ってしまいました。その後ようやく9月から拡大懇親会を開催しメンバーの巻き込みをしましたが、スタートが9か月遅れてしまったため、参加してもらった候補者は5名で物足りないものとなりました。最初から会員拡大の基本方針を策定することができれば、会員拡大の10名を達成することはできたと思います。会員拡大が一番苦戦することは候補者探しです。自分の中で、手応えがあった方法は、Instagramを活用し、すでに当青年会議所のフォロワーになってくれている人から候補者を探し、アポイントを取って話しをすることは比較的容易にできました。現在のフォロワーは4,330名おり、その中から候補者を探し、アポイントを取って話すことができれば、会員拡大の可能性を広げることができると考えます。メンバーを会員拡大に巻き込むためには、会員拡大のための基本方

針を定め、なぜ会員拡大をしないといけないのかをメンバーにも理解してもらい巻き込むことが必要だと考えます。現状メンバーが少なくなり、各例会を実施するための担当を割り振ることもできず、ボランティアの方に手伝ってもらっている状況です。この状況を打開するために、会員拡大は急務であると考えます。拡大LINEについて、更新はほとんどできず、メンバーの巻き込みができませんでした。拡大候補者リストは前任者から引き継ぎましたが、2020年度から更新されておらず、候補者の年齢が把握できなかったため、リスト使用は諦めました。次年度は会員拡大候補者リストを使用して拡大活動をしてもらいたいと思います。

5. 委員長所見

本年度の経験を踏まえ、持続可能な組織とは、メンバーが目的意識をもった状態で例会に臨み、その結果行動の質が上がり少人数でも例年と変わらないぐらいの運動発信ができることがわかりましたが、普段から欠席しているメンバーには、体現してもらうことができませんでした。欠席しているメンバーは青年会議所活動の優先順位が低く、自分の貴重な時間とお金を使ってまで参加する必要がないと思っているため、普段欠席しているメンバーでも参加したいと思う団体であることが必要です。そのためには、メンバーがこの組織を通じて、自分の目的を達成できると思う団体であれば、前向きに出席するメンバーは増え運動の発信力は向上し、持続可能な組織に繋がっていくと考えます。

一昔前から比べると少しずつ組織は時代に合わせて、変化をしていますが、このままでは変化する前にメンバーの減少によって当青年会議所が消滅してしまう可能性があります。次年度は拡大に関しての委員会が設置されます。委員長を中心にメンバー全員が当事者意識をもって会員拡大に取り組むことができれば、メンバー数は純増し、地域に対して力強い運動発信力が行える青年会議所になると考えます。

賀詞交歓会では、前日から多数のメンバーに設営やリハーサル、準備を手伝っていただき、メンバーの皆様のご協力のおかげで緊張感のある賀詞交歓会が開催できました。しかし、メンバー数が足りず、複数の箇所を担当していただき、運営する状況となっておりますので、次年度はメンバーの参加人数を増やすことが重要であると考えます。

4月例会では、講師との打合せ不足で講演内容がずれてしまい、ワークやアンケート内容が見当違いなものになってしまうトラブルもありましたが、メンバーのサポートのおかげで無事に終えることができました。しかし、目的を達成することができない場合、その時間を作って参加してくれたメンバーには無駄な時間を使わせている可能性がありますので、企画の選定や入念な事前準備を行い、不足がないようにすることが必要であると考えます。

12月例会では、委員会メンバーが足りず、事務局メンバーの力をお借りし設営することとなり、無事に例会を終えることができましたが、委員会メンバー以外のご協力がなければ、例会を開催することも難しかったと思います。自分が担当する最後の例会まで、自分の力のなさを痛感しましたが、何とか例会を成功させることができたと考えます。これからはメンバーの皆さんに恩返しができるように活動したいと思います。

持続可能な組織構築委員会の委員長を経験し、この1年で自分の得意な部分と苦手な部分を今まであまり気にすることなく生活していましたが、自分の得意な部分は人と面と向かって行うコミュ

ニケーションが得意であることがわかりました。そのため、これからは人と直接対話ができる場面を作ることを心掛け、会社としても個人としてもさらなる成長をしていきます。

今年1年は家族や大切な仲間を支えられた1年となりました。また、地域の方や先輩諸氏のご協力により、青年会議所活動をやり遂げることはできました。自分自身が苦手としている文章で、相手に想いを伝えることができず苦勞しました。その苦手な部分を見つめ直すきっかけをこの委員長職でいただくことができ、文章で相手に対して、物事を伝えるための要素や方法を勉強することができました。

担当副理事長、副委員長をはじめとする委員会メンバー、多くの LOM メンバーにご協力とご指導をいただきました。皆様のおかげで、私自身の足りない部分を知ることができ、今までは自分の考え方のみで相手の意見を聞くことなく、行動していたことを知ることができました。皆様への御礼と今年度の経験を活かし、今後も LOM のため、海部津島のために例会や事業に積極的に参加することを約束して、私の委員長所見とさせていただきます。

6. 収支決算

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|------|---|-----|---|------|---|-----|---|
| 予 算 | | 決 算 | | 予 算 | | 決 算 | |
| 事業費 | 0 | 事業費 | 0 | 事業費 | 0 | 事業費 | 0 |
| 合 計 | 0 | 合 計 | 0 | 合 計 | 0 | 合 計 | 0 |